21年度 私立大・短大入学状況

私立大入学定員割れ、
ほぼ前年度並みの265大学・46.5%！

不況による地元志向で、地方“好転”、都市部“苦戦”。
「入学定員 800 人未満」の定員割れ、依然、鮮明に。
私立短大の入学定員割れ、過去最高の 69.1%

旺文社 教育情報センター 21 年 8 月

21 年度に入学定員割れとなった私立大は 20 年度より 1 校減の 265 校で、全私立大(集計校)に占める割合も 0.6 ポイントダウンの 46.5%であったことが、日本私立学校振興・共済事業団の調べでわかった。急激な不況で地元志向が強まったことから、地方で入学者増や充足率アップがみられたのに対し、これまで受験生を集めていた都市部は入学者減、充足率ダウンで苦戦している。

他方、「入学定員 800 人未満」の小中規模校の定員割れは、依然として鮮明だ。

短大の入学定員割れ校数は 20 年度より 4 校増の 246 校で、全私立短大に占める割合は、過去最高の 69.1%に達した。

以下に、同事業団がまとめたデータを基に私立大・短大別に入学定員充足率等の概況を探った。

私立大

Ⅰ 私立大全体の基礎データ

(表 1)

区 分	平成 21 年度	平成 20 年度	増 減
集 計 校 数	570 校	565 校	5 校
入 学 定 員 A	449,869 人	448,345 人	1,524 人(0.3%)
志 願 者 B	3,071,673 人	3,063,047 人	8,626 人(0.3%)
志願倍率 B／A	6.83 倍	6.83 倍	±0 ﾎﾟｲﾝﾄ
受 験 者 C	2,952,482 人	2,941,542 人	10,940 人(0.4%)
合 格 者 D	1,039,063 人	1,056,977 人	▼17,914 人(▼1.7%)
合 格 率 D／C	35.19%	35.93%	▼0.74 ﾎﾟｲﾝﾄ
入 学 者 E	479,083 人	478,000 人	1,083 人(0.2%)
歩 留 率 E／D	46.11%	45.22%	0.89 ﾎﾟｲﾝﾄ
入学定員充足率 E／A (加重平均)	106.49%	106.61%	▼0.12 ﾎﾟｲﾝﾄ
入学定員割れ校数(割合)	265 校(46.5%)	266 校(47.1%)	▼1 校(▼0.6 ﾎﾟｲﾝﾄ)

(注) ＊対象は一般選抜、推薦入試（社会人・帰国子女等含む)、ＡＯ入試など。通信制大学 3 校、株式会社立大学 3 校、募集停止 4 校を除く。
＊調査基準日は、21 年 5 月 1 日現在。
＊志願者・受験者・合格者数は、併願含む延べ数。
＊▼印は減少を示す。
＊入学定員割れ校は、全学の入学定員数に対する入学者数の割合が 100%未満の大学。
＊日本私立学校振興･共済事業団資料(21 年 7 月)による。以下の図表等データも、同事業団資料による。

(c)2009 旺文社 教育情報センター

Ⅱ　概　況

【入学定員、志願者数･入学者数等】

○　21 年度の私立大(集計 570 校。以下、同)の入学定員は 44 万 9,869 人で、20 年度より 1,524 人(0.3%)増加。これは新設大学(8 校)や新増設学部(学科)、短大の改組・転換等による。

平成元年からの 21 年間の入学定員の推移をみると、15 年度に若干前年度割れとなったが、毎年度増加しており、21 年度は元年度の約 1.5 倍(18 歳人口は約 5 分の 3)となっている。

○　私立大の志願者数(一般・推薦・ＡＯ入試等含む延べ数。以下、同)をみると、最近では 13 年度～15 年度は増加、16 年度～18 年度は減少したが、19 年度から増加に転じ、21 年度も 8,626 人(対前年度比 0.3%)増の 307 万 1,673 人となった。

○　受験者数は、20 年度より 0.4%増の 295 万 2,482 人であるが、合格者数は 1.7%減の 103 万 9,063 人だった。合格率は前年度より 0.74 ポイント低下し、35.19%。

合格率の推移をみると、元年度～4 年度は 20%未満、5 年度～9 年度は 20%台、10 年度以降は 30%台と上昇しており、18・19 年度は 37.06%の過去最高に達している。

○　入学者数は元年度以降、14 年度と 19 年度に 48 万人台に達したが、20 年度は 47 万 8,000 人に減少。21 年度は 47 万 9,083 人と増加に転じている。(以上、**表 1** 参照)

○　志願者・受験者・入学者数ともやや増加した要因としては、次のような点が挙げられる。

今春の高卒者数の減少率(2.3%)が 20 年度の減少率(5.1%)を大きく下回ったこと、及び四年制大学への進学率が 50.2%(20 年度は 49.1%)と初めて 50%を超えたこと／私立大のセンター試験参加増に加え、その利用方式の複線化等による志願者獲得策の拡大／センター試験平均点の大幅ダウンや国立大「前期集中化」(受験機会の縮減)などによる“安全志向”の高まり ⇒ 国公立大出願の敬遠、私立大への流入、浪人回避で私立大中堅校の志願者増／大学の新設や学部(学科)の新増設、様々な入試改革などの他、経済不況対策としての奨学金事業の拡充や学費の減免措置など。

【入学定員充足率】

○　21 年度の入学定員充足率は 20 年度より 0.12 ポイント下回り、106.49%。

入学定員充足率 100%未満(入学定員割れ)の大学は、20 年度より 1 校減の 265 校で、集計校数の 46.5%(前年度は 47.1%)であった。なお、入学者が定員の 50%に満たない大学は、20 年度の 29 校から 31 校(全体の 5.4%)に増えた。(**図 1・図 2** 参照)

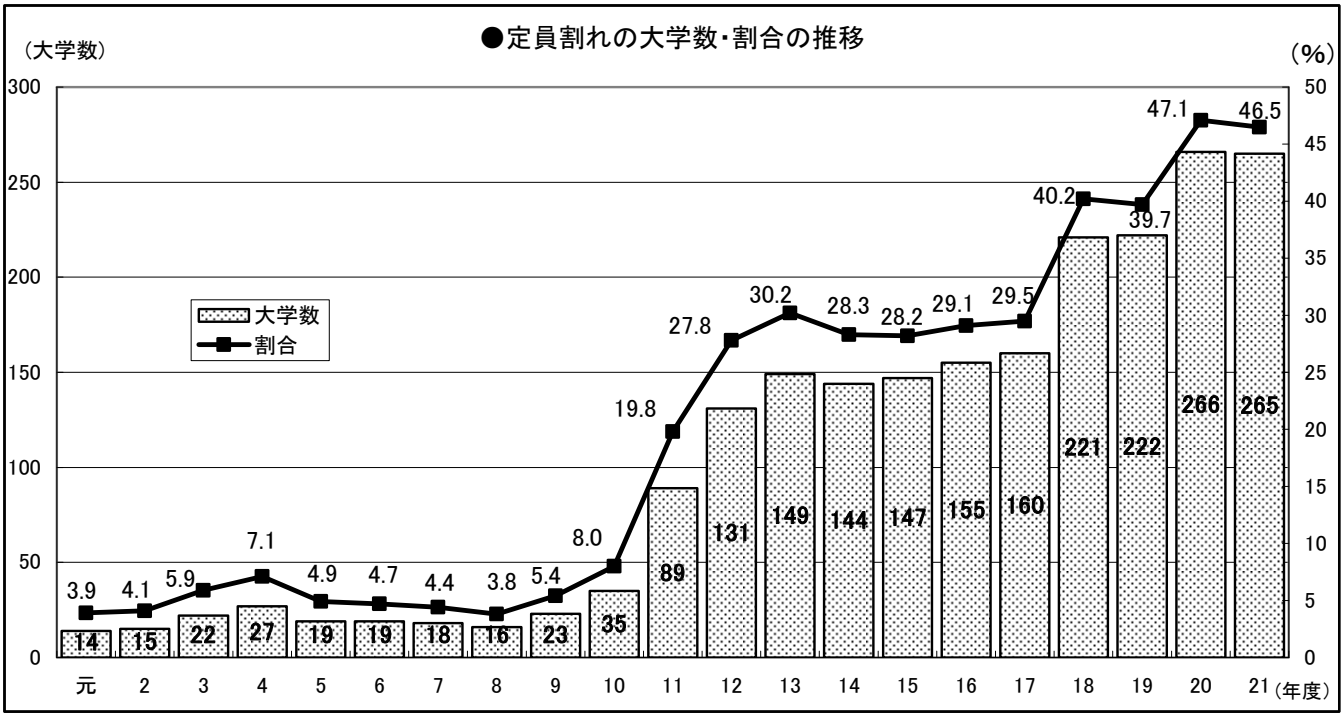
○　入学定員充足率の推移をみると、平成元年度～3 年度まで 120%台、4 年度以降、16 年度まで 110%台をキープしていたが、17 年度から 110%台を割り込んでいる。(**図 2** 参照)

○　21 年度の入学定員充足率の分布(充足率の 10%ごとの区分における大学数の割合)を 20 年度と比べると、定員を充たしている充足率 100%以上では区分 100%台で大学数の割合は前年度を 1 ポイント上回っている他、各区分とも前年度と同じ、または若干低下(充足率 120%台)している。

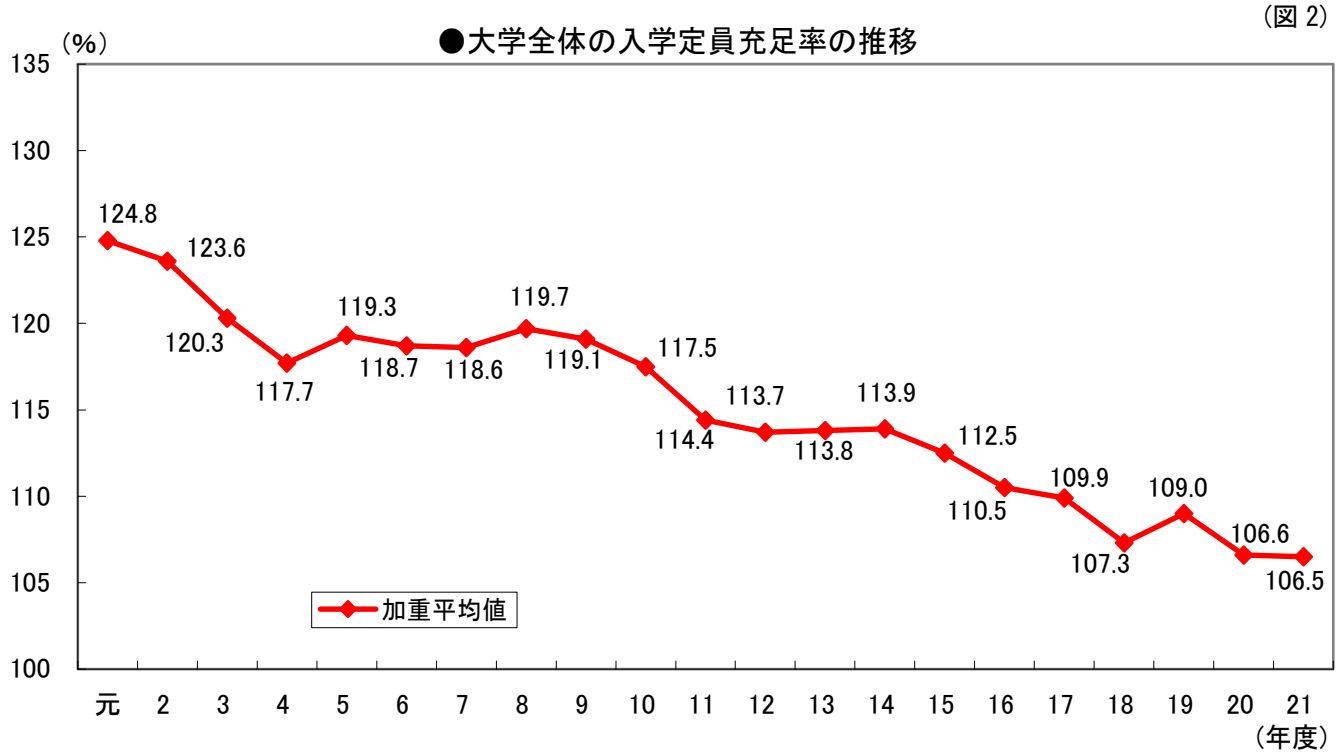
一方、定員割れ状態にある充足率 100%未満の区域では、区分 70%台～60%台が前年度より大学数の割合は 2 ポイント低下したが、他の各区分ではアップしている。(**図 3** 参照)

(c)2009 旺文社 教育情報センター

（図 1）

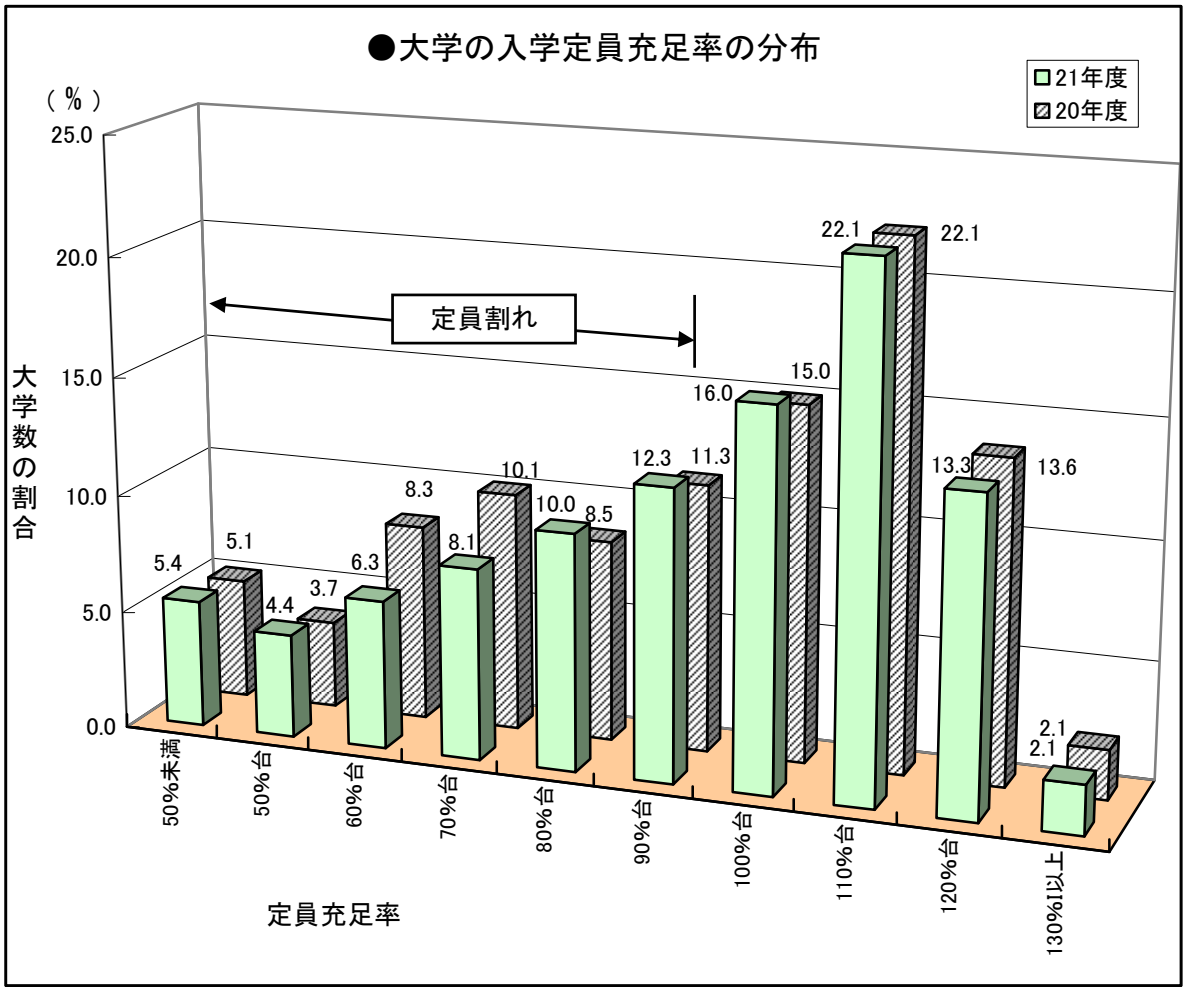


（図 2）



(c)2009 旺文社 教育情報センター

（図 3）



【地域別の動向】

昨秋以来の急激な経済不況は、入試動向にも影響を及ぼしている。家計負担の軽減、進学コストの削減などから“地元志向”（通学圏志向）が一段と強まり、これまでのような、受験生の「都市部“集中”」と「地方“不振”」といった、二極化傾向に変化がみられた。

① 入学者

21 年度の入学者数は前述したように、全体では前年度を若干上回ったが、地域別では従来と違った傾向がみられる。

全国 21 地域(学部所在地別。各地域の当該県等は**表 2** の下段を参照。以下、同)の各入学者数をみると、増加した地域は中国(5.2%増：広島を除く)、東北(4.8%増：宮城を除く)、兵庫(4.5%増)、埼玉(4.4%増)、東海(3.8%増：岐阜・静岡・三重)、北陸(3.1%増)など。

これに対し、東京(0.5%減)、大阪(0.1%減)、神奈川(1.3%減)、京都 (0.8%減)、千葉(0.4%減)など、例年、入学者の多い主に都市部での減少が目立つ。(**表 2** 参照)

② 入学定員充足率

全国 21 地域(学部所在地別)で入学定員を充たしている地域は、埼玉(充足率 114.78%)、

(c)2009 旺文社 教育情報センター

東京(113.50%)、宮城(112.01%)、神奈川(111.26%)、大阪(108.90%)、愛知(107.64%)、京都(107.11%)、福岡(105.60%)、近畿(104.50%：滋賀・奈良・和歌山)、兵庫(102.87%)の 10 地域である。他の 11 地域は“定員割れ地域”で、前年、充足率 100.80%の千葉は、わずかに及ばなかった(充足率 99.89%)。

入学定員充足率のアップ・ダウンをみると、前述の入学者数の増減と同じような傾向がみられる。

中国(前年度比の充足率＋6.30 ポイント：広島を除く)、東北(同、＋4.83 ポイント：宮城を除く)、関東(同、＋4.58 ポイント：茨城・栃木・群馬)、甲信越(同、＋4.13 ポイント)、埼玉(同、＋3.38 ポイント)、北海道(同、＋2.71 ポイント)など、主に地方での充足率アップがみられる。

一方、東京(同、－2.25 ポイント)、神奈川(同、－1.49 ポイント)、千葉(同、－0.91 ポント)、近畿(同、－2.17 ポイント：滋賀・奈良・和歌山)、京都(同、－2.34 ポイント)、宮城(同、－2.26 ポイント)など、主に都市部での充足率ダウンが目立つ。(**図 4** 参照)

③　志願倍率

全国 21 地域(学部所在地別)の志願倍率(一般・推薦・ＡＯ入試など全ての選抜。以下、同)で、全国平均の 6.83 倍を超えているのは、東京(9.80 倍)、近畿(9.32 倍：滋賀・奈良・和歌山)、京都(9.29 倍)、大阪(7.89 倍)、神奈川(6.90 倍)、兵庫(6.86 倍)の 6 地域である。(**図 4** 参照)

(表 2)

●21年度　私立大地域別入学者数＆前年度比増減

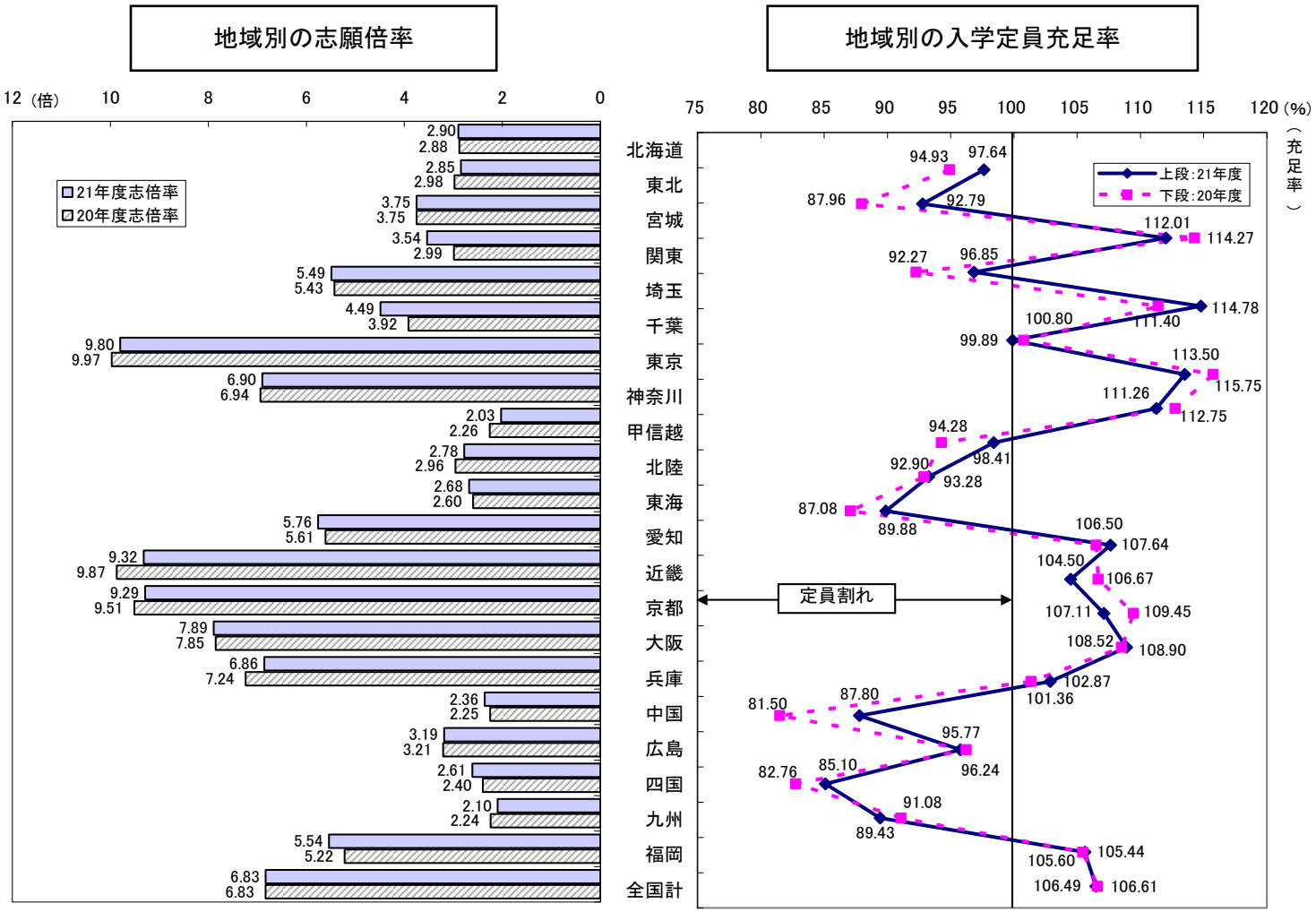
地域		入学者数（人）	増減(対前年度比：%)	地域		入学者数（人）	増減(対前年度比：%)
1	北海道	11,884	0.7	12	愛　知	35,059	0.3
2	東　北	6,125	4.8	13	近　畿	11,080	▼0.2
3	宮　城	8,703	▼1.9	14	京　都	27,868	▼0.8
4	関　東	10,317	1.3	15	大　阪	41,611	▼0.1
5	埼　玉	25,414	4.4	16	兵　庫	22,876	4.5
6	千　葉	21,756	▼0.4	17	中　国	7,140	5.2
7	東　京	148,148	▼0.5	18	広　島	9,049	0.9
8	神奈川	36,168	▼1.3	19	四　国	3,685	▼8.3
9	甲信越	5,698	2.9	20	九　州	12,779	▼3.4
10	北　陸	4,399	3.1	21	福　岡	19,655	▼0.7
11	東　海	9,669	3.8		**合　計**	**479,083**	**0.2**

（注. 学部所在地別で集計。▼は、対前年度比が減少）

★21 地域の区分：
1. 北海道＝北海道／2. 東北＝青森・岩手・秋田・山形・福島／3. 宮城＝宮城／4. 関東＝茨城・栃木・群馬／5. 埼玉＝埼玉／6. 千葉＝千葉／7. 東京＝東京／8. 神奈川＝神奈川／9. 甲信越＝新潟・山梨・長野／10. 北陸＝富山・石川・福井／11. 東海＝岐阜・静岡・三重／12. 愛知＝愛知／13. 近畿＝滋賀・奈良・和歌山／14. 京都＝京都／15. 大阪＝大阪／16. 兵庫＝兵庫／17. 中国＝鳥取・島根・岡山・山口／18. 広島＝広島／19. 四国＝徳島・香川・愛媛・高知／20. 九州＝佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄／21. 福岡＝福岡

(c)2009 旺文社 教育情報センター

●地域別の志願倍率＆入学定員充足率の動向　（図 4）



（注．①学部所在地別による。　②各地域の当該県等は、表 2 の下段を参照）

【大学規模別の動向】

○　大学の規模別の動向をみると、入学定員充足率及び志願倍率とも、「入学定員 800 人」が大きな分岐点となっている。

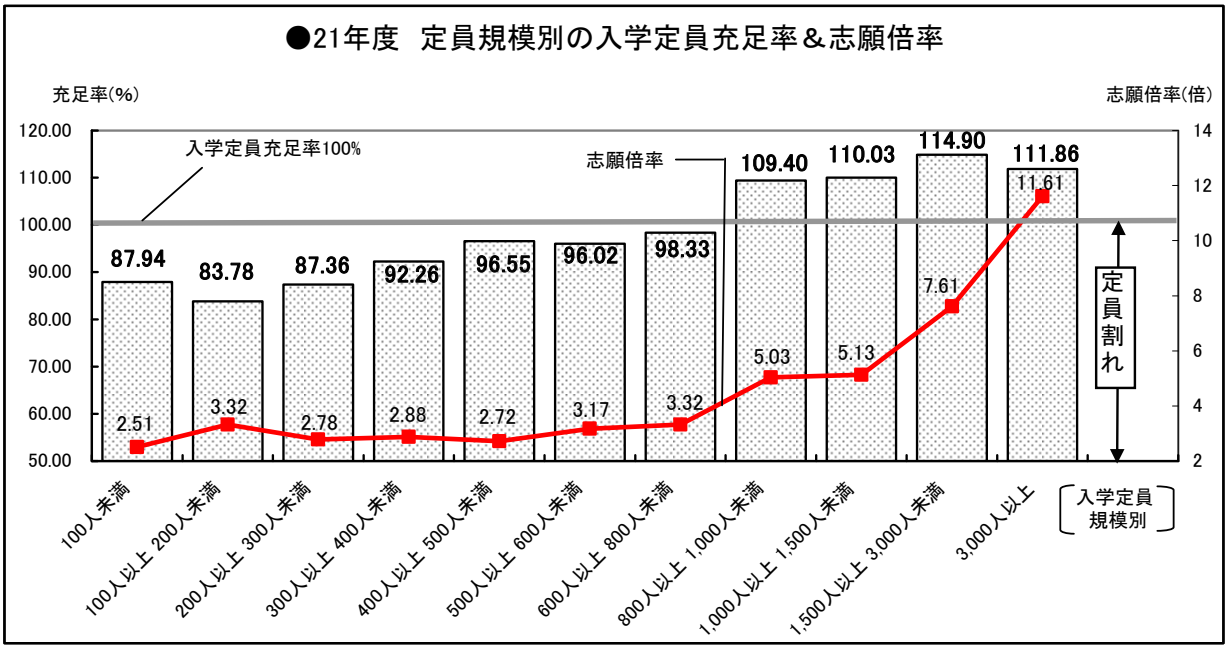
○　「入学定員(以下、定員)3,000 人以上」(23 校)の大規模校の入学定員充足率は 111.86%で、以下、1,500 人以上～3,000 人未満＝114.90%、1,000 人以上～1,500 人未満＝110.03%、800 人以上～1,000 人未満＝109.40%。「定員 800 人以上」の大学では、入学者数が定員を 10%程度上回っている。これに対し、「定員 800 人未満」の大学では、規模別の全ての区分で充足率 100%を割り込み、“定員割れ状態”にある。

○　一方、志願倍率も、「定員 800 人未満」は 2 倍台～3 倍台と低いが、「定員 3,000 人以上」では 11.61 倍と高倍率である。（以上、図 5 参照）

なお、入学定員 3,000 人以上の大規模大学 23 校(全校数の 4.0%)の志願者数は 149 万 8,689 人で、全志願者の 48.8%(前年度 49.4%)を占め、“強い大規模校の寡占化”を示している。

(c)2009 旺文社 教育情報センター

（図 5）



【学部系統別の動向】

○　日本私立学校振興・共済事業団(以下、私学事業団)による学部系統別(下欄の**注記**参照)の動向をみると、志願倍率の最高は例年どおり医学の 21.53 倍(前年度 22.66 倍)、以下、農学系(9.20 倍)、理・工学系(7.87 倍)、社会科学系(7.36 倍)、人文科学系(6.86 倍)など。医学部(医学科)の入学定員は、医師不足・偏在、地域医療対策などで増員されたが、志願者数の伸びが鈍く、志願倍率は低下し、やや広き門となった。

入学定員充足率の高い学部系統は、体育学(121.11%)、農学系(110.17%)、人文科学系(108.43%)、社会科学系(107.89%)、理・工学系（107.25%)、保健系(105.49%)など。

○　20 年度と比較して、志願倍率がアップしたのは理・工学系、農学系など。入学定員充足率がアップしたのは教育学、体育学、家政学、理・工学系などである。

一方、低迷の続く歯学(志願倍率 2.61 倍／入学定員充足率 77.49%)、及び薬学(同、6.63 倍／同、95.85%)は、志願倍率、入学定員充足率とも低下している。6 年制の導入などで低迷する薬学は 20 年度に、志願者数が若干増加(633 人増の 8 万 5,777 人)したが、21 年度は再び志願者減(7.7%減の 7 万 9,212 人)となり、志願倍率の低下も続いている。

また、歯学は歯科医師過剰などの懸念から敬遠され、志願倍率、入学定員充足率とも私学事業団による 13 の学部系統区分において最低レベルである。

注．私学事業団による 13 の学部系統区分：①医学／②歯学／③薬学／④保健系／⑤理・工学系／⑥農学系／⑦人文科学系／⑧社会科学系／⑨家政学／⑩教育学／⑪体育学／⑫芸術系／⑬その他

【定員割れの推移】

○　入学定員割れの大学数・割合の推移をみると、11 年度～13 年度に急増して 30%を超

(c)2009 旺文社 教育情報センター

えた後、17 年度までは 30%弱で横ばい状態であった。18 年度は 221 校、19 年度は 222 校が入学定員割れとなり、その割合は一気に 40%程度に達した。21 年度はほぼ前年度並みで、半数近く(46.5%)の大学が定員割れとなり、厳しい状況を示している。(図 1 参照)

○ 定員割れの大学数・割合が 11 年度から急激に増加しているのに、全体の充足率(加重平均値)がさほど大きな変化を示していないのは、大規模大学・学部による安定した数値によるとみられる(図 1・図 2 参照)。図 2 は加重平均値で示してあるが、加重平均値には大規模の学部・学科の影響が、図 1 の単純平均値には小規模の学部・学科の影響が現れやすい。

【定員割れからの“脱出”状況】

○ 大学ごとに、入学定員充足率を前年度と比較してみよう。21 年度は定員割れであった 261 校のうち、21 年度に充足率を上昇させて入学定員を充足(定員割れから“脱出”)した大学は 23 校(8.8%)に過ぎない。残りの 238 校(91.2%)は、一部の大学(75 校、28.7%) に充足率の上昇が見られたものの、2 年間とも定員割れ状態になっている。

なお、20 年度の場合、17 校(7.7%)が 19 年度の定員割れ状態から脱出している。

○ 一方、20 年度は入学定員を充たしていた 299 校のうち、21 年度に充足率を低下させて定員割れに陥った大学が 19 校(6.4%)ある。

「定員削減」などの対症療法に留めず、根本的な治療＝“教学改革”を断行しないと、充足率の多少の改善はあっても、“定員割れからの脱出”は難しいようだ。

短 大

＜短大全体の基礎データ＞ (表 3)

区　分	平成 21 年度	平成 20 年度	増　減
集 計 校 数	356 校	360 校	▼4 校
入 学 定 員 A	79,522 人	83,102 人	▼3,580 人(▼4.3%)
志 願 者 B	104,461 人	115,545 人	▼11,084 人(▼9.6%)
志願倍率 B／A	1.31 倍	1.39 倍	▼0.08 ﾎﾟｲﾝﾄ
受 験 者 C	102,413 人	113,133 人	▼10,720 人(▼9.5%)
合 格 者 D	85,865 人	92,355 人	▼6,490 人(▼7.0%)
合 格 率 D／C	83.84%	81.63%	2.21 ﾎﾟｲﾝﾄ
入 学 者 E	69,058 人	72,740 人	▼3,682 人(▼5.1%)
歩 留 率 E／D	80.43%	78.76%	1.67 ﾎﾟｲﾝﾄ
入学定員充足率 E／A (加重平均)	86.84%	87.53%	▼0.69 ﾎﾟｲﾝﾄ
入学定員割れ校数(割合)	246 校(69.1%)	242 校(67.2%)	4 校(1.9 ﾎﾟｲﾝﾄ)

(注) ＊対象は一般選抜、推薦入試（社会人・帰国子女等含む)、ＡＯ入試など。通信制短大 1 校、募集停止 23 校を除く。　＊調査基準日は、21 年 5 月 1 日現在。
＊志願者・受験者・合格者数は、併願含む延べ数。　＊▼印は減少を示す。
＊入学定員割れ校は、全学の入学定員数に対する入学者数の割合が 100%未満の短大。
＊日本私立学校振興・共済事業団資料(21 年 7 月)による。

(c)2009 旺文社 教育情報センター